

# オーストラリアの大都市圏におけるエスニック別にみた学歴と所得の関係

— 国勢調査のカスタマイズデータによる分析 —

石井久美子

筑波大学大学院生

本稿では多文化・多民族化が進むシドニー、メルボルンの2大都市圏を対象に、学歴と所得の関係について考察することで、エスニックグループのオーストラリア大都市圏における社会的な位置づけを明らかにすることを目的とした。

オーストラリア大都市圏におけるエスニックグループは、収入面では家庭で英語を話すグループに比べると低い、大学進学率の高さやエスニックグループの人口増加からみると存在感が今後さらに拡大すると予想される。エスニックグループの中でもインド系と中国語系は、他のグループに比べ大学進学率も高く収入も高い傾向にある。また、家庭で使用される言語の割合は、シドニーとメルボルン両都市で2倍にまで増加しているため、他のエスニックグループと比較し存在が突出していることが明らかとなった。

キーワード：シドニー、メルボルン、カスタマイズデータ、エスニックグループ、所得

## I はじめに

本稿は、オーストラリア統計局（Australian Bureau of Statistics, 以下ABS）の提供するセンサスデータのカスタマイズデータと地理情報システム（以下GIS）を組み合わせ、大都市圏内部の民族別の住み分けの様子や学歴と所得との関連の考察を試みたものである。

オーストラリアは諸外国に比べてデジタル地図データ等の空間データの整備・管理が進んでいる。堤（2010）では、ABSがかなり以前からセンサスデータの電子的な公開や、GISソフトウェアとの互換性に優れたデータフォーマットでのカスタマイズデータの取得に取り組んできたことについて紹介されている。また、ABSのデータを実際に利用した研究は、センサスデータを用いてシドニー都市圏周辺農村における農業的土地利用変化の持続的 성격について明らかにした菊地（2002）や、センサスデータのカスタマイズテーブルとGISを組み合わせ、大都市圏内部の民族別の住

み分けの様子や、社会・経済属性との関連の考察を行った堤（2013）などがあげられる。このような研究蓄積からABSのセンサスデータの有効性がうかがえる。

オーストラリアの多民族性に関しては、1950年代頃までのイギリス・アイルランドからの移民、1960年代以降増加した東欧・南欧諸国からの移民、そして後に続く1970年代のアジア系移民の急増によって現在主要な大都市圏で多文化・多民族化がみられる。今日ではこれらの移民は「英語が苦手」「低所得」など従来の移民像とは異なり、英語のスキルが高く専門的な資格を持つタイプの移民がオーストラリアの大都市圏で急増している（堤、2018）。そのため学歴・所得についてもステレオタイプな移民像とは異なる結果になると考えられる。さらに民族別の学歴・所得を分析することで、その民族のオーストラリア内での社会的な立ち位置を理解することにもつながる。

そこで本稿は、オーストラリア大都市圏におけるエスニック別にみた学歴と所得の関係について

考察することで、エスニックグループのオーストラリア大都市圏における社会的な位置づけを明らかにすることを目的とする。

## II オーストラリアセンサスのカスタマイズデータの利活用

### 1. 研究方法

本稿は、ABSの提供するセンサスデータのテーブルビルダーとGISを組み合わせた定量分析を基本とし、解析結果をもとに分析および考察を行った。ABSのテーブルビルダーは国勢調査データのカスタマイズ機能がついている。この機能を使用することで、単一属性のみのデータだけではなく2種類、3種類の属性をクロスさせたデータを自由に組み合わせることが出来る<sup>1)</sup>。本稿ではこのカスタマイズ機能を使用することで、より詳細な考察が可能となった。

### 2. オーストラリアの人口増加

オーストラリアの人口増加には移民の増加が寄与している。こうした多民族化はオーストラリア大都市圏に共通するものの大都市圏別にみると差異も大きい。そのため今回はシドニーとメルボルンの2大都市圏を取り上げて共通点や差異に着目する。本稿ではシドニー及びメルボルンの家庭で話される言語に注目した。センサスには自身や両親の「出身国」を表すデータがあるが、そのデータに該当する移民は移民一世代目と二世代目までであり、両親とも移民二世代目でオーストラリア生まれの場合、三世代目の移民の祖先がどこの国の出身かを示すデータは存在しない。そのため近年増加した移民の動向をある程度追うことは可能だが、100年以上前の移民の動向については把握することが困難である。そこで本稿では家族や親族とのコミュニケーションのため、家庭では祖先の母国語を話すと考えられることから「家庭での

使用言語」に着目した<sup>2)</sup>。

シドニー、メルボルンとも総人口の約60%は英語のみしか話さない。残りの約40%が、家庭では英語以外の言語を使用している。英語以外の言語を使用する人の割合は2006年から2016年の10年間で10%ほど増加している。

図1より、2006年にはシドニーではアラビア語の使用が最も多く（総人口の3.9%）、その他、広東語（同3.0%）、標準中国語（同2.4%）などアジア・太平洋地域の言語が多い特徴がある。一方、メルボルンで最も多い言語はイタリア語（同3.3%）であり、続けて、ギリシア語（同3.1%）、ベトナム語（同1.9%）が多く、アジア系だけでなく南欧系の言語が多いことが見て取れる。

一方で、図2によれば、2016年にはシドニーの標準中国語を話す割合が2006年と比べ約2倍となった（同4.7%）。続いて多い言語はアラビア語（同4.0%）であり、広東語（同2.8%）、インド系言語（同2.7%）が後に続く。2006年と比較してアジア・太平洋地域の言語が多い特徴があることに変わりはないが、標準中国語の増加が著しい。メルボルンで最も多い言語は標準中国語（同4.1%）であり、インド系言語（同3.6%）、ギリシア語（同2.4%）、ベトナム語（同2.3%）、イタリア語（同2.3%）の順となっており、2006年に割合の高かった南欧系の言語の割合が減少し、一方でアジア・太平洋地域の言語の割合が増加している。

## III シドニー大都市圏の構造変容

### 1. シドニー大都市圏におけるエスニックコミュニティの分布

図3ではエスニックグループのうち、特徴的な分布を示す六つのグループを抜き出して地図化した。図3内の各図の中央やや左寄りにCBD（中心業務地域）があり、CBDのすぐ左側をポートジャクソン湾の入り江が東西に延びている。

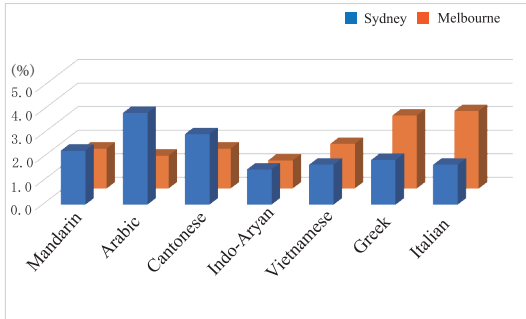


図1 家庭で使用される言語 (2006)

1) Indo-AryanはHindi, Punjabi, Sinhalese, Urduの合計。  
(オーストラリア統計局のデータにより作成)

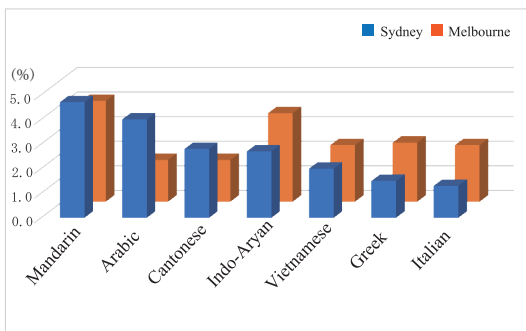


図2 家庭で使用される言語 (2016)

1) Indo-AryanはHindi, Punjabi, Sinhalese, Urduの合計。  
(オーストラリア統計局のデータにより作成)

まずアラビア語を話す人口は、ポートジャクソン湾の南側に集中する傾向が強く、特にグランヴィル (Granville) やマウントルイス (Mt. Lewis), バンクスタウン (Bankstown) に集住していることが読み取れる。これらの集住域は、産業用の小空港であるバンクスタウン空港とその周りに多くの工場や倉庫が広がり雇用機会も比較的多い地区とも重なる (堤ほか, 2015)。ベトナム言語を話す人もほとんどがポートジャクソン湾の南側に集中している。特にCBDから約30km離れたカブラマッタ (Cabramatta) などに集住している。次に中国語系言語を話す人口分布をみると、CBDから10km圏内に多く集住して

いる。ポートジャクソン湾の北側のチャツウッド (Chatswood) や南側など都心での集住が目立つ。家庭でイタリア語を話す人の分布はCBDから10kmほど離れたライカート (Leichhardt) やファイブドッグ (Five Dock) に顕著な集住が確認できる。特にファイブドッグには2,000人を超えるイタリア語を話す人が在住している。現在のライカートは、シドニーの中では高級住宅地であり、住民の世帯所得は平均よりも高く (id the population experts, 2015b), 管理職・専門職の割合も平均よりも高い (id the population experts, 2015c)。ライカートはリトル・イタリーと呼ばれており、イタリア系の食材やレストランが並んでいる (吉田ほか, 2015)。次にギリシア語を話す人の分布はイタリア語の分布と類似しており、ポートジャクソン湾の南側に集中する傾向が強い。その中でもCBDから5km圏内に位置するキングスグローブ (Kingsgrove) は家庭でギリシア語を話す人が4,600人に上る。キングスグローブでは祖先がギリシア人であった割合が18%ほどに上り、ギリシア人の集住がみられる (2016 Census QuickStats)。最後にインド系言語の分布の特徴としてシドニー全体に集住が広がっているという特徴がある。その中でもCBDから20km圏内のレイクンバ (Lakemba) や郊外のパークリー (Parklea) では5,000人を超えるインド系言語の人が集住する様子が確認できる。

## 2. シドニー大都市圏におけるエスニックグループと所得との関連

表1は、シドニー大都市圏 (Greater Capital City Statistical Area: GCCSA) における使用言語、所得、教育水準の三つの属性をクロスさせたものである。この表によれば、自宅で英語を使用する人の所得水準は学歴に関わらず週給2,000豪ドル以上のグループの割合がシドニー大都市圏の平均

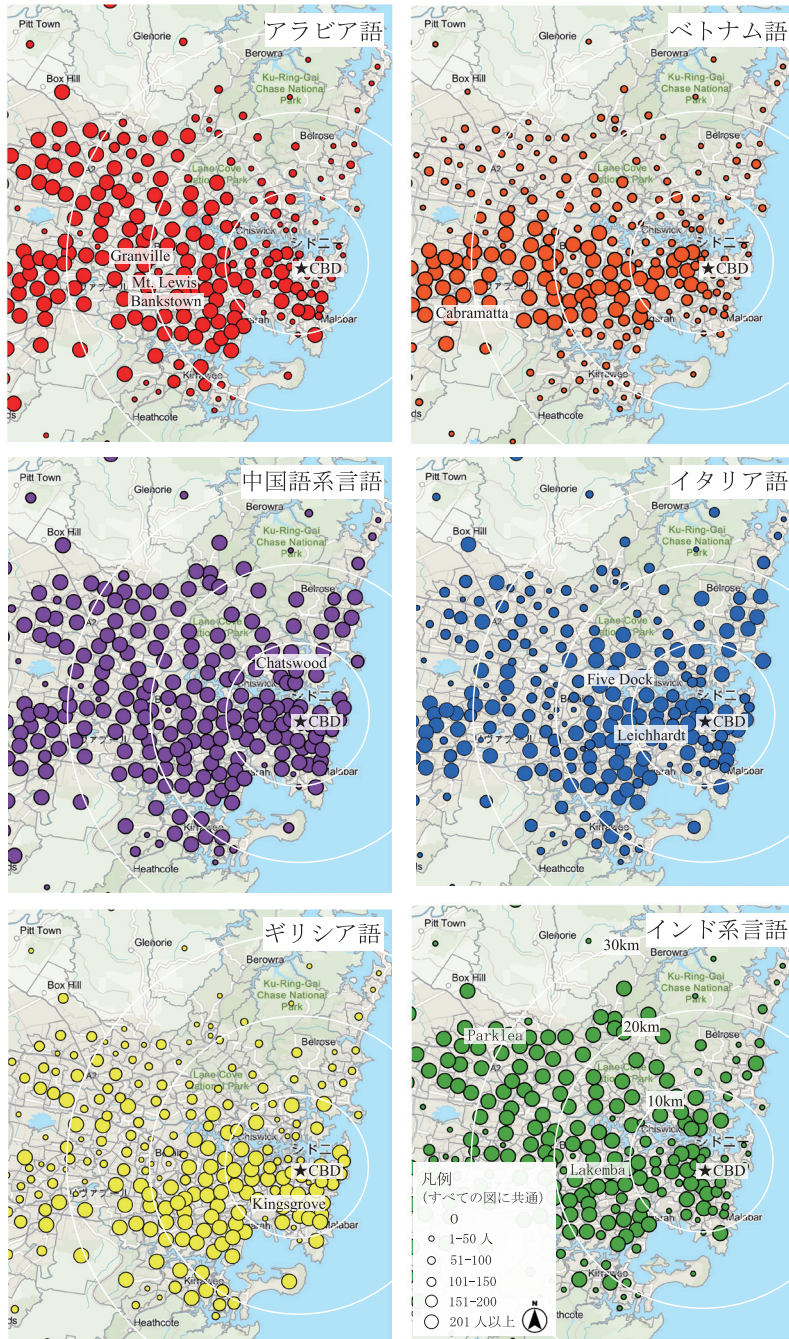


図3 シドニー大都市圏におけるエスニックグループ別の居住分布 (2016)

- 1) 中国系言語は標準中国語(北京語), 客家語, 呉語などの合計。
- 2) インド系言語は, ベンガリ語, ヒンディー語, ネパール語などIndo-Aryan系言語の合計。

(オーストラリア統計局のデータにより作成)

表1 シドニー大都市圏における使用言語別・学歴別にみた所得状況（2016）

主要言語	言語別人口 (人)	言語別 割合 (%)	大学卒業以上			専門学校以下・その他 <sup>※※※</sup>			合計			非回答 (%)	非分類 <sup>※※※※</sup> (%)
			週給650 豪ドル未 滿 (%)	週給650～ 1,999豪ド ル (%)	週給2,000 豪 ドル以上 (%)	週給650 豪ドル未 滿 (%)	週給650～ 1,999豪ド ル (%)	週給2,000 豪 ドル以上 (%)	週給650 豪ドル未 滿 (%)	週給650～ 1,999豪ド ル (%)	週給2,000 豪 ドル以上 (%)		
英語	2,816,829	58.3	3.9	10.5	6.9	27.6	23.4	4.1	31.5	33.9	11	2.3	20.9
中国語系言語 <sup>※</sup>	384,894	7.9	13.6	17.3	4.8	36.7	12.4	0.9	50.3	29.7	5.7	1.2	12.7
アラビア語	194,054	4.0	5.5	6.8	2.0	43.9	15.7	0.9	49.4	22.5	2.9	3.1	21.2
インド系言語 <sup>※※</sup>	220,868	4.5	14.4	22.4	6.2	22.1	14.2	0.8	36.5	36.6	7.0	1.3	17.9
ベトナム語	99,296	2.0	5.2	8.8	2.4	45.7	18.4	0.7	50.9	27.2	3.1	2.0	16.3
ギリシア語	76,183	1.5	2.7	7.5	4.4	43.7	23.9	3.2	46.4	31.4	7.6	3.1	11.2
大都市圏全体	4,823,993	100.0	5.7	11.3	5.6	29.0	19.9	2.9	34.7	31.2	8.5	7.4	18.6

- 1) 表中の網かけは、大都市圏全体の平均を上回るもの。
- 2) ※中国語系言語は、標準中国語（北京語）、広東語、客家語、呉語などの合計。
- 3) ※※インド系言語は、ベンガリ語、ヒンディー語、ネパール語などIndo-Aryan系の言語の合計。  
(<https://www.abs.gov.au/ausstats/abs@.nsf/Lookup/2901.0Chapter6102016>)
- 4) ※※※その他には、非回答・非分類を含む。
- 5) ※※※※非分類は、統計上Not applicableと分類されたもの。

（オーストラリア統計局のデータにより作成）

を上回っていることがわかる。一方で、アラビア語を除くエスニック言語のグループはいずれも大学に進学せず週給650豪ドル以下の割合が大都市圏全体の平均を上回っている。しかしその中でも中国語系言語やインド系言語は大学進学率が高く、どちらも週給650～1,999豪ドルのグループはシドニー大都市圏の平均を超えている。さらにインド系言語に関しては週給2,000豪ドル以上の割合もシドニー大都市圏の平均を上回っていることが読み取れる。

### 3. シドニーにおける高所得者とエスニックグループの分布の関係

図4ではシドニー大都市圏における週給2,000豪ドル以上の割合を示している。図4よりポートジャクソン湾の沿岸部に高所得者の割合が高く、内陸部になるにつれ高所得者の割合が減少する傾向にある。また湾の北部には高所得者が比較的多く、逆に南部は低所得者層の割合が高く南北のコントラストが強いことも特徴的である。また図3と図4を照らし合わせてみると、エスニックグループが多く集住する上記で紹介した地域は高所得者の分布が10%を下回っている地域が多

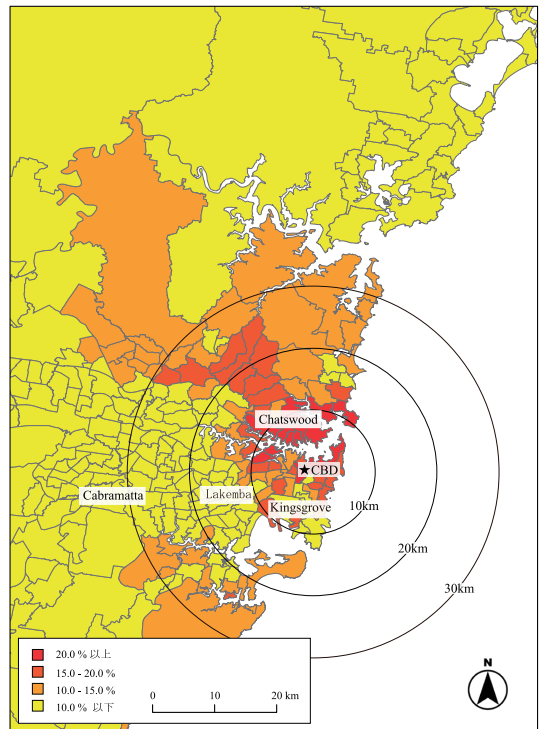


図4 シドニー大都市圏における高所得者の分布（2016）

（オーストラリア統計局のデータにより作成）

い。しかし中国語系言語を話す人が多く住むチャツウッドは高所得者の割合が15%を超えている。

また中国語系言語、イタリア語、ギリシア語、インド系言語などのグループはポートジャクソン湾の沿岸部にも集住が確認されているため高所得者の割合が多い地域とも重なる。

#### IV メルボルン大都市圏の構造変容

##### 1. メルボルン大都市圏におけるエスニックグループ別の居住分布

図5ではシドニー同様にエスニックグループのうち、特徴的な分布を示す六つのグループを抜き出して地図化した。メルボルンはシドニーに続く国内で2番目に大きい大都市圏である。

まずアラビア語を話す人の分布は他のエスニックグループに比べ数が少なく、集住地域はCBD中心部とCBDから20km圏外での二極化がみられる。多くのアラビア語を話す人が集住するロックスバラ・パーク（Roxburgh Park）でも3,000人ほどの集住である。ベトナム言語を話す人はCBD周辺から10km圏内と、20km圏外のスプリングヴェイル（Springvale）に集住している。世界各国のベトナム人のコミュニティは他のエスニックグループに比べて集住する傾向が強く、その理由としてベトナム系移民の一世代目は、一般的に英語が苦手なケースが多いことが指摘されている（山下編，2008）。メルボルン大都市圏においてもベトナム系移民の一定の集住は確認できるが、極端な集住は他の移民と比較してもみられない。次に中国語系言語を話す人口分布をみるとCBDから10km圏内の集住が確認できる。特にクレイトン（Clayton）では7,000人、CBD周辺部では14,000人を超える中国語系言語を話す人が在住している。家庭でイタリア語を話す人の分布はCBDから10km圏内に集中している。特にCBDから約10km離れたコバーク（Coburg）に在住が多くみられた。次にギリシア語を話す人の分布は、CBD周辺から20km圏内を中心に広く分布し

ている。特に、南東の15kmから20km圏内に位置するオークレイ（Oakleigh）地区での分布密度が高い。オークレイがギリシア系住民の集住地区であることは、メルボルン大都市圏に暮らす人びとなら大半の人が認識するほど有名である（堤・オコナー，2022）。

最後にインド系言語の分布はギリシア語と類似しており、CBD周辺から20km圏内を中心に広く分布している。CBD周辺から20km圏内のクレイギーバーン（Craigieburn）や克蘭ボルン（Cranbourne）周辺ではインド系移民の集住がみられる。

##### 2. 大都市圏におけるメルボルンエスニックグループと所得との関連

表2は、メルボルン大都市圏（Greater Capital City Statistical Area: GCCSA）における使用言語、所得、教育水準の三つの属性をクロスさせたものである。表2より自宅で英語を使用する人の週給2,000豪ドル以上の割合は、大学卒業以上であれば大都市圏全体の平均を上回っており、大学進学をしなかったグループでも週給2,000豪ドル以上の割合は大都市圏の平均にはわずかに届かなかったものの、中国語系言語からギリシア語のグループに比べ高いといえる。一方で、インド系言語を除くエスニックグループはいずれも大学に進学せず、週給650豪ドル以下の割合が大都市全体の平均を上回っている。また大学を卒業していても週給650豪ドル以下の割合は大都市全体の平均を上回っている。その中で中国語系言語とインド系言語のグループは大学進学率が40%ほどで、これは家庭で英語を話すグループよりも高い比率となっている。また週当たりの収入も高く、インド系言語に関しては週給2,000豪ドル以上の割合は大都市全体の平均を超えている。

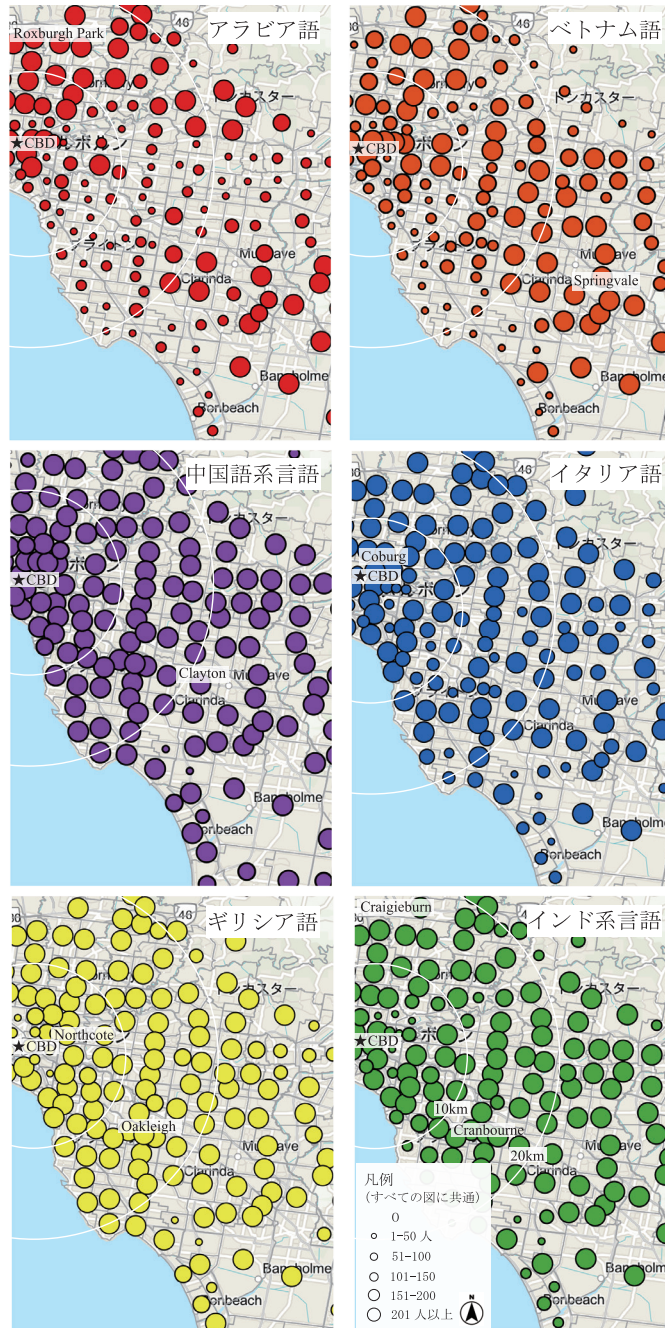


図5 メルボルン大都市圏におけるエスニックグループ別の居住分布 (2016)

- 1) 中国系言語は標準中国語（北京語）、客家語、呉語などの合計。
  - 2) インド系言語は、ベンガリ語、ヒンディー語、ネパール語など Indo-Aryan 系言語の合計。
- (オーストラリア統計局のデータにより作成)

表2 メルボルン大都市圏における使用言語別・学歴別にみた所得状況（2016）

主要言語	言語別人口 (人)	言語別 割合 (%)	大学卒業以上			専門学校以下・その他 <sup>***</sup>			合計			非回答 (%)	非分類 <sup>****</sup> (%)
			週給650 豪ドル未 満 (%)	週給650～ 1,999豪ド ル (%)	週給2,000 豪 ドル以上 (%)	週給650 豪ドル未 満 (%)	週給650～ 1,999豪ド ル (%)	週給2,000 豪 ドル以上 (%)	週給650 豪ドル未 満 (%)	週給650～ 1,999豪ド ル (%)	週給2,000 豪 ドル以上 (%)		
英語	2,781,183	62.01	4.8	11.7	5.4	29.5	23.6	2.4	34.3	35.3	7.8	2.6	20.0
中国語系言語 <sup>**</sup>	280,016	6.24	16.3	16.8	3.7	37.7	10.8	0.8	54.0	27.6	4.5	1.1	12.8
アラビア語	76,271	1.70	7.2	8.1	1.9	41.8	13.4	0.9	49.1	21.5	2.9	3.3	23.2
インド系言語 <sup>**</sup>	202,451	4.51	14.9	20.4	4.4	23.3	15.8	0.6	38.2	36.2	5.1	1.5	19.0
ベトナム語	101,388	2.26	6.6	9.3	1.8	44.5	17.7	0.6	51.1	27.0	2.3	2.1	17.5
ギリシア語	107,392	2.39	3.6	7.9	3.5	48.1	21.0	2.3	51.6	28.9	5.8	3.3	10.4
大都市圏全体	4,485,210	100.0	6.2	11.5	4.4	30.4	20.0	2.5	36.6	31.5	6.9	6.7	18.3

- 1) 表中の網かけは、大都市圏全体の平均を上回るもの。
- 2) \*中国語系言語は、標準中国語(北京語)、広東語、客家語、呉語などの合計。
- 3) \*\*インド系言語は、ベンガリ語、ヒンディー語、ネパール語などIndo-Aryan系の言語の合計。(https://www.abs.gov.au/ausstats/abs@.nsf/Lookup/2901.0Chapter6102016)
- 4) \*\*\*その他には、非回答・非分類を含む。
- 5) \*\*\*\*非分類は、統計上Not applicableと分類されたもの。

(オーストラリア統計局のデータにより作成)

### 3. メルボルンにおける高所得者とエスニックグループの分布の関係

図6は、メルボルン大都市圏における週給2,000豪ドル以上の割合を示している。CBDから東方向の10km圏内は高所得者の割合が高く、さらに、ブライトン(Brighton)やサンドリングハム(Sandringham)などのポートフィリップ湾沿岸では、20km圏内まで高所得者の集中がみられる。逆にオークレイ(Oakleigh)やスプリングヴェイル(Springvale)などの南側では高所得者の割合は少なくなる。また図5と図6を照らし合わせると、シドニー大都市圏と同様にエスニックグループが多く集住する地域では高所得者の割合が低い。しかし中国系移民が集住するCBD周辺部では6%、ギリシア系移民が集住するオークレイ地区では10%と他のエスニックグループが集住する地区に比べ高所得者の割合は比較的高い。

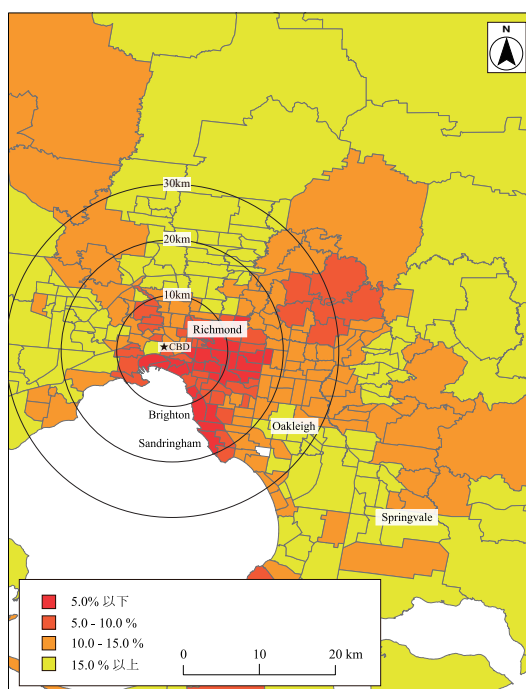


図6 メルボルン大都市圏における高所得者の分布(2016)

(オーストラリア統計局のデータにより作成)

### V 考察

本章ではオーストラリア大都市圏におけるエスニック別にみた学歴と所得の関係からエスニックグループのオーストラリア大都市圏における社会

的な位置づけについて考察する。

表1と表2より、シドニー及びメルボルン大都



市圏の共通点として自宅で英語を使用する人は学歴に関係なく収入はエスニックグループと比較すると高い傾向にある。しかし大学進学率は自宅で英語を使用する人とエスニックグループとの間に差はほとんどなく、中国系、インド系のエスニックグループに関しては英語を使用する人よりも高い進学率を示している。大学進学率の高さの理由としては移民が第二、三代目となり彼らが幼児期から英語で教育を受けてきたことで英語が流暢な移民が増加したことが考えられる。またエスニックグループの収入に関しては、大学卒業以上の中国語系言語とインド系言語のグループの収入は他のエスニックグループに比べ高く、特にインド系言語のグループは週給2,000豪ドル以上の割合が大都市圏の平均を超えている。

次に図4、図5よりシドニー及びメルボルン大都市圏ではエスニックグループが集住している地域は、高所得者の割合が低い傾向にある。しかし中国語系言語を話す人が多く住むチャットウッドや、CBD周辺部では高所得者の割合が高い。また、シドニー大都市圏では、イタリア語、ギリシア語、インド系言語などのグループは高所得者の割合が高い沿岸部にも集住が確認されているため、高所得者の割合が多いと考えられる。

上記から、オーストラリアにおけるエスニックグループ全般に関して、多文化社会の成功事例として取り上げられることの多いオーストラリアの大都市圏であるが、収入の面からみると家庭で英語を話すグループとの間に差があることが指摘できる。しかしエスニックグループの大学進学率の高さや家庭では英語以外の言語を使用する人口の増加から、今後エスニックグループの存在はオーストラリア大都市圏の中でさらに大きくなると考えられよう。

またエスニックグループの中でもインド系と中国語系は他のエスニックグループと比べて少し異

なる。前述の通りこの二つのグループは他のエスニックグループに比べ大学進学率も高く収入も高い傾向にある。また、2006年から2016年の10年で家庭で使用される言語の割合はシドニー、メルボルン両都市で2倍にまで増加している。このような理由からインド系と中国語系はオーストラリア内のエスニックグループの中でも存在が突出しているといえる。

## VI おわりに

本稿では、オーストラリア大都市圏におけるエスニック別にみた学歴と所得の関係について考察することで、エスニックグループのオーストラリア大都市圏における社会的な位置づけを明らかにすることを目的とした。その結果①オーストラリア大都市圏におけるエスニックグループは収入面では家庭で英語を話すグループに比べると低いですが、大学進学率の高さやエスニックグループの人口増加から今後の存在の拡大が期待でき②その中でもインド系と中国語系は他のエスニックグループと比較し存在が突出していることが明らかとなった。

本稿は紙幅の都合上、一部のエスニックグループの学歴と所得の関係を断片的に示したに過ぎない。しかしGISとカスタマイズデータを組み合わせた解析によってより詳細な考察を可能にすることができた。特に今回扱った収入についてのデータは日本の国勢調査では分析不可能であり、このようなデータから多文化社会の諸問題を検討することは、学術的かつ実用的にも有意義といえる。

## 【付記】

本稿の骨子は、2022年2月に開催された第29回地理空間学会例会（オンライン）の「オーストラリアの先進的な統計利用 - テーブルビルダーの利点と可能性 -」における「オーストラリア大都市圏におけるエスニック別にみた学歴と所得の関係」で発表した。本稿

の執筆にあたり、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)(No.24401036:研究代表者 堤 純)の一部を使用した。

### 注

- 1) オーストラリア国勢調査のカスタマイズデータの詳細については堤(2010)を参照。
- 2) 「家庭での使用言語」に着目した部分に関しては、堤(2013)を参考にした。

### 文 献

菊地俊夫(2002):シドニー都市圏の都市周辺農村における農業的土地利用変化とその持続的性格ーペンリス市キャスルレイ地区の事例ー。地学雑誌, **111**, 81-99.

堤 純(2010):オーストラリアにおけるGISの活用ーオーストラリア統計局の国勢調査カスタマイズデータを中心にー。統計.日本統計局協会, **61**, 31-36.

堤 純(2013):シドニーとメルボルンにおける都市社会の多様性ー地理情報システム(GIS)を用いた分析の可能性ー。オーストラリア研究, **26**, 37-48.

堤 純・吉田道代・葉 倩瑋・筒井由起乃・松井圭介(2015):センサスデータからみたオーストラリアにおける多文化社会の形成.地理空間, **8**, 81-89.

堤 純編(2018):『変貌する現代オーストラリアの都

市社会』筑波大学出版会, 200p.

堤 純・オコナー, ケヴィン(2022):ギリシャ系移民のセンターとしてのオークレイーギリシャ系コミュニティの役割に着目してー。オーストラリア研究, **35**, 1-17.

山下清海編(2008):『エスニック・ワールド』明石書店, 261p.

吉田道代・葉 倩瑋・筒井由起乃・松井圭介・堤 純(2015):シドニー・ライカートにおけるイタリア系コミュニティの拠点再構築の試み.地理空間, **8**, 91-102.

Australian Bureau of Statistics Census Tablebuilder.

<https://auth.censusdata.abs.gov.au/webapi/jsf/dataCatalogueExplorer.xhtml> [Cited 2022/2/23]

id the population experts. (2015b): Leichhardt Council area Household income.

<http://profile.id.com.au/leichhardt/household-income> [Cited 2022/02/23]

id the population experts. (2015c): Leichhardt Council area Employment status.

<http://profile.id.com.au/leichhardt/employment-status> [Cited 2022/02/23]

2016 Census QuickStats.

[https://quickstats.censusdata.abs.gov.au/census\\_services/getproduct/census/2016/quickstat/119021364](https://quickstats.censusdata.abs.gov.au/census_services/getproduct/census/2016/quickstat/119021364) [Cited 2022/02/23]

## Relationship between Educational Qualification and Income in terms of Ethnic Differences in the Australia Metropolitan Areas: Based on the Census Customised Data Analysis

ISHII Kumiko

Graduate Student, University of Tsukuba

**Keywords:** Sydney, Melbourne, Census Customised Data, Ethnic Groups, Income